2015年1月改訂（新様式第2版）（新記載要領に基づく改訂）
2014年11月作成（第1版）

承認番号　21300BZZ00554000

機械器具47　注射針及び穿刺針
高度管理医療機器　単回使用クラスⅢ処置セット　33961003

麻 酔 セ ッ ト

再使用禁止

【警告】

ドレープ、ラミドレープ

● 可燃性消毒薬をご使用の際は、消毒用アルコール等を拭き取り、または気化拡散させてから本品を使用してください。［電気メス等ご使用の際、気化したアルコール蒸気の濃度により、引火することもあります。］

ステリストリップ

使用する前に警告内容を確認・理解いただき、自身で判断が難しい場合など必要に応じて医師に相談の上、使用してください。

1. 傷に腫れやむくみが起こると、本品が引っ張られ、本品の端部付近の皮膚に過度の緊張がかかることがあります。それにより、皮膚の引きつれや水疱などの異常が皮膚に生じる可能性や、本品の粘着力が弱まり剥がれてしまう可能性があります。
2. 皮膚に強く粘着している場合、本品を剥がすときに皮膚の異常（表皮の剥離、水疱、発疹、発赤、痛みなど）を起こす可能性があります。
3. 非常にまれですが人によっては、本品の使用により皮膚の異常（腫れ、水疱、発赤、発疹、ただれ、痒み、毛包炎など）が発生する可能性があります。
4. 本品を使用し剥がした後に、まれに皮膚の色素の沈着や脱失を起こす場合や、瘢痕が形成されることがあります。

カテラン針

［ 使用方法 ］

● 本品が穿刺中に骨に当たった場合は、無理な力で前進させないでください。［針先が曲がる恐れがあります。］
● 本品を穿刺の際、針は慎重に進めてください。
［神経等を損傷する恐れがあります。］

脊椎麻酔針、硬膜外麻酔針、カテラン針、神経ブロック針

● 本品を穿刺中に骨に当たる等により強い抵抗を感じた場合や、内針抜去後の外針のみの場合は無理な力で前進及び操作しないで下さい。［針の曲り・折れの恐れがあります。］
● 本品を穿刺の際、針は慎重に進めて下さい。［神経等を損傷する恐れがあります。］
● 硬膜外麻酔手技において、カテーテル挿入時に抵抗が強い場合は無理に挿入せず、挿入を中断して穿刺針（硬膜外麻酔用）（以下、硬膜外針という。）とカテーテルを注意しながら一緒に抜去し、異常が無いかを確認し最初からやり直して下さい。カテーテル及び硬膜外針に異常があった場合、新しいものと交換して下さい。［カテーテルが屈曲、反転、結節形成等を起こしている可能性があります。この場合、硬膜外針の刃先やアゴでカテーテルを損傷し、留置中あるいは抜去時に切断する恐れがあります。切断した場合、硬膜外腔など体内への遺残の危険性があります。］

【禁忌・禁止】

● 再使用禁止。

ステリドレープ

● プラスチックドレープを介して除細動をかけないでください。［分流がおきたり、除細動の効果が不十分になる可能性があります。］
● ヨウ素化合物含有の切開用フィルムドレープが同梱されている場合は、ヨウ素に過敏性が判明している患者に使用しないでください。［ヨウ素過敏症を発症する恐れがあります。］

ステリストリップ

下記の事項を守らないと現在の症状が悪化する可能性や、傷の閉鎖・治癒の遅延につながる可能性があります。

1. 再使用禁止［一度開封してそのままにしておいた本品を使用すること、一度開封したものを再滅菌して使用すること、一度使用したものを再使用することはしないでください。製品の清潔が保たれません。］
2. 本品を貼る皮膚に血液や、油分、水分などが付着している場合や体毛が濃い部位には、そのまま上から貼付しないでください。［そのまま貼付すると十分に粘着せず、貼付中に剥がれてしまう恐れがあります。］
3. 可動部位（関節）付近など傷に緊張が掛かりやすい部位では使用しないでください。傷や皮膚に過度に緊張がかかることや、剥がれてしまうことがあります。
4. 感染している傷（膿が出ている、発赤、発熱、腫れ、悪臭などの異常がある傷）には使用しないでください。［使用した場合、傷の悪化、感染の悪化、治癒の遅延につながる可能性があります。］
5. 動物に噛まれた傷、ガラス・木片・砂・衣服の繊維・金属などの異物が入り込んだ傷には使用しないでください。傷の中にある異物を必ず除去し、傷の洗浄・消毒を行ってから使用してください。
［異物が入りこんだ傷をそのまま接合すると、感染による炎症を起こし、傷の閉鎖・治癒の遅延につながる恐れがあります。］
6. 傷の縁をしっかりと合わせて傷を閉鎖することができない場合には使用しないでください。［無理に傷の縁を合わせると過度に緊張がかかり、それによって炎症を起こす恐れがあります。］
7. 筋膜、腱に達するような深い傷には本品単独で傷を閉鎖しないでください。医師の診察を受け、指示に従って使用してください。［皮膚深部の接合がうまく行かず、治癒の遅延につながる可能性があります。］
8. 軟膏やクリームなどを塗布した皮膚に本品を貼らないでください。併用が必要な場合には医師の指示に従ってください。［本品の粘着力が低下し、剥がれる可能性があります。］
9. 貼付する際、素手や汚れた手袋、汚染しているあるいは滅菌性が維持されていないピンセットなどで台紙および本品を直接触らないでください。［汚染されたもので本品を触り、傷に貼ると、傷が感染を起こす可能性があります。救急処置時などやむを得ず無菌的に本品を触ることができない場合は、本品の端だけを持ち、本品が傷に触れる部分を汚染させないように貼ってください。］

取扱説明書を必ずご参照ください。

10. 剥離する際、治癒した傷でも出血したり、損傷したりする可能性があるので、両端から傷に向かってゆっくりと丁寧に剥がしてください。
11. 包装が破損している場合には、本品が汚染されている可能性があるため、使用しないでください。

テガダーム

［ 使用方法 ］

●感染したカテーテル穿刺部位や創には使用しないでください。［感染を増悪させる恐れがあります。］
●縫合糸またはその他の縫合材の代替としては使用しないでください。［創傷が悪化する恐れがあります。］

カテラン針

［ 使用方法 ］

●本品を脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含有する製剤の投与に使用しないでください。［脂肪乳剤と本品の針管針基の原材料であるポリカーボネートが接触することにより針管針基が破損する恐れがあります。］

硬膜外麻酔針

［ 使用方法 ］

●本品が穿刺されている状態で持続硬膜外麻酔用カテーテルを引き戻さないでください。また、この状態で本品を押し進めないでください。［カテーテルが切断し、硬膜外腔への遺残の可能性があります。］

眼科用ナイフ、スカルペル

●本品に感作又はアレルギーを示す患者には使用しないでください。

脊椎麻酔針、硬膜外麻酔針、カテラン針、神経ブロック針

●カテーテル・ガイド針等を使用する場合は、本品のサイズに適合しないサイズのものは使用しないで下さい。
●消毒が施されていない皮膚へは穿刺しないで下さい。
●本品を脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含有する製剤の投与時に使用しないで下さい。［脂肪乳剤と本品の針管針基の原材料であるポリカーボネートが接触することにより、針管針基が破損する恐れがあります。］
●硬膜外麻酔手技において、硬膜外針が穿刺されている状態でカテーテルを引き抜かないで下さい。また、この状態で硬膜外針を押し進めないで下さい。［カテーテルを切断する恐れがあります。切断した場合、硬膜外腔など体内への遺残の危険性があります。］
・ガイド針を併用した場合は脊麻針を挿入後はガイド針のみを進めないで下さい。また、脊麻針を引き抜く際に抵抗を感じる場合は無理に引き抜かず、ガイド針と一緒に引き抜いて下さい。［脊麻針の曲がり、切断の恐れがあります。切断した場合、体内への遺残の危険性があります。］

【原則禁忌】

●硬膜外麻酔手技においては、椎弓切除術の既往のある患者や、脊柱変形が認められる患者［これらの患者は、棘突起変形や椎間孔狭窄を起こしている可能性があります。この場合、骨にカテーテルが圧迫され、カテーテルの挿入困難、あるいはカテーテル切断の恐れがあります。切断した場合、硬膜外腔など体内への遺残の危険性があります。］

手術用手袋、グローブ

［ 適用対象（医療関係者、患者）］

●今までにアナフィラキシー症状の経験がある医療関係者及び患者への使用は禁止してください。

合わせガーゼX、柄付ガーゼX、セミ商影X、商影XW

●X線造影糸を直接挟むと、切れたり、抜け落ちて体内に残存する可能性がありますので、X線造影糸部分以外の箇所を挟んで使用してください。

ピンセット、鉗子、ハサミ、持針器

［ 使用方法 ］

●本品を曲げ、切削、打刻（刻印）等の二次的加工（改造）することは、折損等の原因となりますので絶対に行わないでください。
●電気メスと直接接触させないでください。［火傷や感電の恐れがあります。］

【形状・構造及び原理等】

●本品は各種器具、被覆保護材及び医薬品のうち二品目以上の構成品を組み合わせて滅菌したものです。
●構成品の名称及び数量は、構成品表又は表示ラベルに記載しています。

三方活栓

本品はポリカーボネート樹脂を使用しています。

ユニセット

使用前に本構成品の情報について取扱説明書をご参照ください。

手術用手袋、グローブ

本品は天然ゴムを使用しています。

ラップスポンジ

本品はポリ塩化ビニール（可塑剤：フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)）を使用しています。

【使用目的又は効果】

●一般的な処置を行うために必要なクラスⅢが最も高い各種器具、被覆保護材及び医薬品の全てを含む、プレパッケージされたキットです。本品は単回使用です。

ラップスポンジ、合わせガーゼX、柄付ガーゼX、セミ商影X、商影XW

・X線造影剤によりX線透過装置を用いて本品の位置を特定できます。

【使用方法等】

●開封して適宜使用してください。

三方活栓

1. 汚染に十分注意した上で包装内から取り出し、輸液セット等に確実に接続してください。
2. コック上の「ＯＦＦ」の位置が閉塞した流路となります。使用目的に合わせコック位置を設定してください。なおコック位置を切り替えることにより、流路も切り替わります。

＜使用方法に関連する使用上の注意＞

・あらかじめ接合部に緩みがないことを確認してから使用してください。また、使用中は定期的に緩み、外れがないことを確認してください。
・本品が身体の下等に挟まれないように注意してください。［チューブの折れ、閉塞、部品の破損等が生じる可能性があります。］
・薬液を混注する場合は、空気の混入に注意してください。
・「テルフュージョン三方活栓混注キャップ」等を装着し、針を用いて混注する場合は、針先がコック部に接触しないようにしてください。［コックが破損して、薬液が漏れる可能性があります。］
・Ｌ型タイプを使用する場合、コックを１８０°以上回転させないでください。［コックが浮き上がり、薬液が漏れる可能性があります。］
・輸液を一時的に中断する等、本品のメスコネクターから輸液セット、延長チューブ等を取り外す際は、「三方活栓キャップ」、「三方活栓混注キャップ」又は「シュアプラグ」を接続してください。［メス側が開放状態となり、薬液漏れや空気混入、汚染の可能性があります。］
・混注を行う場合は、混注する薬液の性質を考慮し、必要な場合は混注前後に生理食塩液等でフラッシングを行う等、適切な処置を講じてください。［本品は輸液剤の流路から横に分岐した構造となっているため、薬液の混注を行った場合、薬液の一部が直ちに流れずに本品内部に残る可能性があります。］
・コネクターを使用する場合は以下の事項を順守してください。

1）嵌合する場合は、過度な締め付けをしないでください。［コネ

取扱説明書を必ずご参照ください。

クターが外れなくなる又は、コネクターが破損する可能性があります。]
2) テーパー部分に薬液を付着させないでください。[嵌合部の緩み等が生じる可能性があります。]
ガラスシリンジ、シリンジ（LOR）
1) 使用に際しては、あらかじめ充分、且つ適切な準備を行って下さい。
2) 外筒内で押子がスムーズに動くことを確認して下さい。
3) 穿刺針（硬膜外麻酔用）（以下、硬膜外針という。）を所定の部位に慎重に穿刺し、靭帯の抵抗を認めたら硬膜外針の内針を抜去して下さい。
4) 本品を硬膜外針の針管針基に接続し、抵抗消失法（Loss of Resistance method)により硬膜外針針管を硬膜外腔へ進めて下さい。
5) 手技を終了後、本品を硬膜外針の針管針基から外して下さい。

【使用上の注意】

- ●袋が開封、破損及び汚損している場合は使用しないでください。
- ●本品に破損等の異常がある場合は使用しないでください。
- ●開封後は直ちに使用してください。
- ●使用後は感染防止に留意し処理してください。
- ●消毒薬を使用した際には、乾燥したことを確認してからドレーピングしてください。

ステリドレープ
[重要な基本的注意]
・本品の使用により、かぶれ等の皮膚障害が生じた場合、アレルギー症状を起こした場合には、ただちに本品の使用を中止し、医師に相談し適切な処置をしてください。
[高齢者への適用]
・高齢患者などで皮膚が脆弱な場合、粘着材使用製品の貼付時・剥離時には、特段の配慮が必要です。特に皮膚に緊張をかけないよう注意してください。皮膚が引っ張られて炎症を起こすことがあります。
[その他の注意]
・本品は再滅菌しないでください。
・高温を発する機器類に接しないよう注意してください。
・本品に自着性粘着包帯が含まれている場合、適用部位に必要以上の圧迫を加えないでください。
・本品に切開用フィルムドレープが同梱されている場合、切開用フィルムドレープを縫合糸、ステイプルなどの創傷閉鎖材料の代用として使用しないでください。

ステリストリップ
1.重要な基本的注意
(1)本品を使用した経験のない方は、医師に相談の上、指示にしたがって使用することをお勧めします。
(2)医師に相談の際はこの添付文書を持参してください。
(3)粘着製品により皮膚の異常を起こしやすい方は、使用前に医師に相談してください。
(4)傷が感染している兆候（膿がでている、発赤、発熱、腫れ、悪臭など）を呈していないか、また、本品を貼付している部位およびその周辺の皮膚に異常（腫れ、水疱、発赤、発疹、ただれ、痒み、毛包炎など）が現れていないかを確認するために頻繁に傷を観察してください。もし、異常が認められた場合は、直ちに医師に相談し、適切な処置を受けてください。
(5)貼付部および傷に異常を認めた場合や、治療上の必要がある場合を除き、本品が剥がれてくるまで、あるいは傷がしっかりと閉鎖するまで貼りつづけてもかまいません。
(6)傷が汚れたり濡れたりしないように、必要に応じ、ガーゼや救急絆創膏などで傷を覆ってください。
(7)傷の閉鎖がうまく進まない場合は本品を除去し、感染などの異常がないことを確認した上で貼り直しをするか、医師に相談してください。
(8)本品の上から被覆しているガーゼなどのドレッシング材を交換するときには、本品を剥がさないように注意してください。
(9)傷の消毒は必要最小限に控えてください。不必要な消毒は傷の治癒の遅延につながることがあります。

カテラン針
・消毒が施されていない皮膚へは穿刺しないでください。
・穿刺針の刃先に損傷がないこと、内針の刃面が針管の刃面よりも出ていないこと、及び内針が円滑に動くことを確認してください。
・針管保護用のプロテクターを外す時、針先に過剰な圧力をかけないでください。また、針先がプロテクターに触れないようにしてください。
・針管部に直接手を触れないでください。
・本品の使用中に針管の曲がり等異常を感じた場合は、使用を中断してください。
・使用後リキャップをする時は誤刺を防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台などにおいて被せてください。

注射針
・プロテクターを外す時、針先がプロテクターに触れないようにしてください。
・針管部に直接手を触れないでください。
・ガラス製シリンジに装着する時は針もとに過剰な力をかけないでください。
・本品をバイアルや輸液容器等のゴム栓に穿刺する場合は、針をなるべく刺通面に垂直に刺し、同一部位に穿刺されることがないように注意してください。
・アンプル等の薬液容器壁面に針が当たらないように注意してください。[刃先が変形し、穿刺しづらくなる場合があります。]
・使用後リキャップをする時は誤刺を防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて被せてください。

針付シリンジ
・プロテクターを外す時、針先がプロテクターに触れないようにしてください。
・針管部に直接手を触れないでください。
・ガラス製シリンジに装着する時は針もとに過剰な力をかけないでください。
・本品をバイアルや輸液容器等のゴム栓に穿刺する場合は、針をなるべく刺通面に垂直に刺し、同一部位に穿刺されることがないように注意してください。
・アンプル等の薬液容器壁面に針が当たらないように注意してください。[刃先が変形し、穿刺しづらくなる場合があります。]
・使用後リキャップをする時は誤刺を防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて被せてください。
・造影剤等の高圧注入には使用しないでください。
・注射針等を接続し使用する場合は誤刺に注意してください。
・低温下の衝撃で破損する可能性があるため、冷蔵保存する際は取扱に注意してください。
・外筒印刷部に造影剤等の薬剤がついた状態で放置すると印刷が剥離する可能性があります。
・外筒印刷部の目盛をこすると目盛が消える可能性があります。

シリンジ
・造影剤等の高圧注入には使用しないでください。
・注射針等を接続し使用する場合は誤刺に注意してください。
・低温下の衝撃で破損する可能性があるため、冷蔵保存する際は取扱に注意してください。
・外筒印刷部に造影剤等の薬剤がついた状態で放置すると印刷が剥離する可能性があります。
・外筒印刷部の目盛をこすると目盛が消える可能性があります。

三方活栓
[重要な基本的注意]
・使用中は本品の破損、接合部の緩み及び薬液漏れ等について、定期的に確認してください。

取扱説明書を必ずご参照ください。

・脂肪乳剤及び脂肪乳剤を含む医薬品、ヒマシ油等の油性成分、界面活性剤又はアルコール等の溶解補助剤等を含む医薬品を投与する場合及びアルコールを含む消毒剤を使用する場合は、本体のひび割れについて注意してください。［薬液により本体にひび割れが生じ、血液及び薬液漏れ、空気混入等の可能性があります。特に、全身麻酔剤、昇圧剤、抗悪性腫瘍剤及び免疫抑制剤等の投与では、必要な投与量が確保されず患者への重篤な影響が生じる可能性があります。なお、ライン交換時の締め直し、過度な締め付け及び増し締め等は、ひび割れの発生を助長する要因となります。］
・ひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換してください。
・接液部を汚染させないでください。
・コックに対し、引き抜く方向に過度な負荷を加えないでください。［コックが外れ、液漏れが発生する可能性があります。］
・インジェクター等を用いた造影剤等の高圧注入は行わないでください。［液漏れ又は破損する可能性があります。］
・ロックコネクターとポリ塩化ビニール製のメスコネクターを接続する場合は注意してください。［外れなくなる可能性があります。］

硬膜外麻酔針

［ 重要な基本的注意 ］
・本品は手技に精通した医師の管理下で使用してください。
・持続硬膜外麻酔用カテーテルを挿入する場合は、本品のゲージサイズに合ったものを使用してください。
・操作中に異常を感じたときは、速やかに操作を中止し、その原因を確認してください。また、担当医師の指示のもと適切な処置を行ってください。
・外套針管に過剰な負荷をかけないでください。［外套針管又は外套が破損し、薬液等が漏れる可能性があります。］
・穿刺終了後、リキャップする必要がある場合は、誤刺を防止するため、保護具等を使用するか、プロテクターを手で持たずに台等に置いて、プロテクターをまっすぐに被せてください。[傾けると､針先がプロテクターを突き抜ける可能性があります。]
・すべての操作は無菌的に行ってください。

眼科用針

・刃先がないので、注射または穿刺に使用しないでください。
・針管を曲げたり、反復折り曲げしないでください。
・針管部に直接手を触れないでください。

ガラスシリンジ、シリンジ（LOR）

1.重要な基本的注意
・全ての操作は無菌的に行い、患者の血液及び体液への細菌等の接触に対する予防措置を常時行って下さい。
・使用前に製品を十分に点検し、異常が認められるものは使用しないで下さい。
・本品は抵抗消失法(Loss of Resistance method)以外の目的で使用しないで下さい。
・本品の使用中に気密不良等の異常を感じた場合は使用を中断して下さい。
・使用後は速やかに廃棄処分して下さい。
2.相互作用（併用注意）
・本品に他の医療機器を接続して使用する場合は、その製品の添付文書又は取扱説明書をよく読み、その指示に従って使用して下さい。

脊椎麻酔針、硬膜外麻酔針、カテラン針、神経ブロック針

1.重要な基本的注意
・全ての操作は無菌的に行い、患者の血液及び体液への細菌等の接触に対する予防措置を常時行って下さい。
・使用前に製品を十分に点検し、異常が認められるものは使用しないで下さい。
・針管保護用のプロテクターを外す際、針管に過剰な圧力がかからないよう、また、針管に直接手を触れないよう注意して下さい。
・カテーテル・ガイド針等を使用する際、通りが困難な場合は使用を中断して下さい。
・本品の使用中に針管の曲がり等異常を感じた場合は、使用を中断して下さい。無理な操作により針が折れ体内に遺残する恐れがあります。
・本品を使用中、内針抜去後の外針のみの状態で無理な力で回転させないで下さい。針が折れる恐れがあります。
・手技中の患者の体動により針の曲がり・折れの恐れがあります。特に小児への使用には充分注意して下さい。
・使用後は、針刺し事故に注意し、速やかに廃棄処分して下さい。
2.相互作用（併用注意）
・油性成分、界面活性剤又はエタノール等の溶解補助剤を含み、かつ投与が持続的に行われる可能性のある注射剤と、ポリカーボネートを原材料とした本品の針管針基を併用した場合、本品の針管針基が破損を起こし、液漏れが起こる可能性がありますので注意してください。
・本品に他の医療機器を接続して使用する場合は、その製品の添付文書又は取扱説明書をよく読み、その指示に従って使用して下さい。
3.不具合・有害事象
1）不具合
本品の使用に伴い、以下のような不具合が発生する可能性があります。
・折れ、曲がり
・先端の潰れ、曲がり
・針管針基の破損及び破損による液漏れ
2）有害事象
術者は、本品を用いた下記の手技に伴い、及び患者の状態によって起こりうる以下の有害事象に留意する必要があります。
①神経ブロック
・局所麻酔薬血管内注入
・血腫形成
・気胸、血気胸
・皮下気腫及び縦隔気腫
・横隔膜麻痺
・神経損傷
・感染
②硬膜外麻酔
・硬膜穿刺
・低血圧
・全脊髄くも膜下麻酔・硬膜外血腫、膿瘍形成
・尿閉
・局所麻酔薬中毒
・局所麻酔薬くも膜下注入、血管注入、硬膜下注入
・神経または脊髄の損傷
・嘔気、嘔吐
・感染
③脊髄くも膜下麻酔
・血圧低下
・呼吸抑制
・悪心、嘔吐
・頭痛
・脳神経麻痺
・脊髄神経麻痺
・髄膜炎
④硬膜外・脊髄くも膜下麻酔併用
②硬膜外麻酔及び③脊髄くも膜下麻酔の内容
⑤採卵
・腹腔内出血、膣壁出血、膀胱出血
・臓器損傷
・感染
・膿瘍
・アナフィラキシーショック

手術用手袋、グローブ

1､使用注意

取扱説明書を必ずご参照ください。

・天然ゴムは、かゆみ、発赤、じんましん、むくみ、発熱 、呼吸困難、喘息様症状、血圧低下、ショックなどのアレルギー性症状を まれに起こすことがあります。このような症状を起こした場合には、直ちに使用を中止し、適切な処置してください。
・天然ゴムと接触する機会の多い方は天然ゴムアレルギー発症のハイリスクグループ と考えられるため、使用に関しては注意してください。

2、重要な基本的注意
・爪先・刃物等 尖ったものなどに触れると破れたり、穴があくことがあるので注意してください。

3、相互作用
・高濃度の薬品や溶剤(ガソリン・灯油・ベンジン等)によっては硬化・浸透することがあるので確認の上使用してください。

ガーゼ、タンポンガーゼ、ケーパイン、デクーゼ、セミデクーゼ
・ガーゼに電気メス等を近づけると、引火するおそれがあるので、注意して使用してください。

ラップスポンジ
・本品のX線不透視板から、可塑剤の溶出する可能性があります。

セミ商影Ｘ、商影XW
・ガーゼに電気メス等を近づけると、引火したり、X線造影糸が切れたりするおそれがあるので、注意して使用してください。

皮膚ペン
・皮膚以外の部位には使用しないでください。

綿棒
・綿体に直接手を触れないでください。

ヒポジン液
・使用前に本構成品の情報について取扱説明書をご参照ください。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞
● 直射日光、水ぬれ、及び火気をさけ、高温・多湿でない清潔な場所に保管してください。

＜使用期限（耐用期間）＞
● 使用期限(自己認証)を袋に記載。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：川本産業株式会社
TEL 06-6943-8956（お客様相談窓口）
（10:00～17:00 月～金 ただし祝祭日を除く）

取扱説明書を必ずご参照ください。